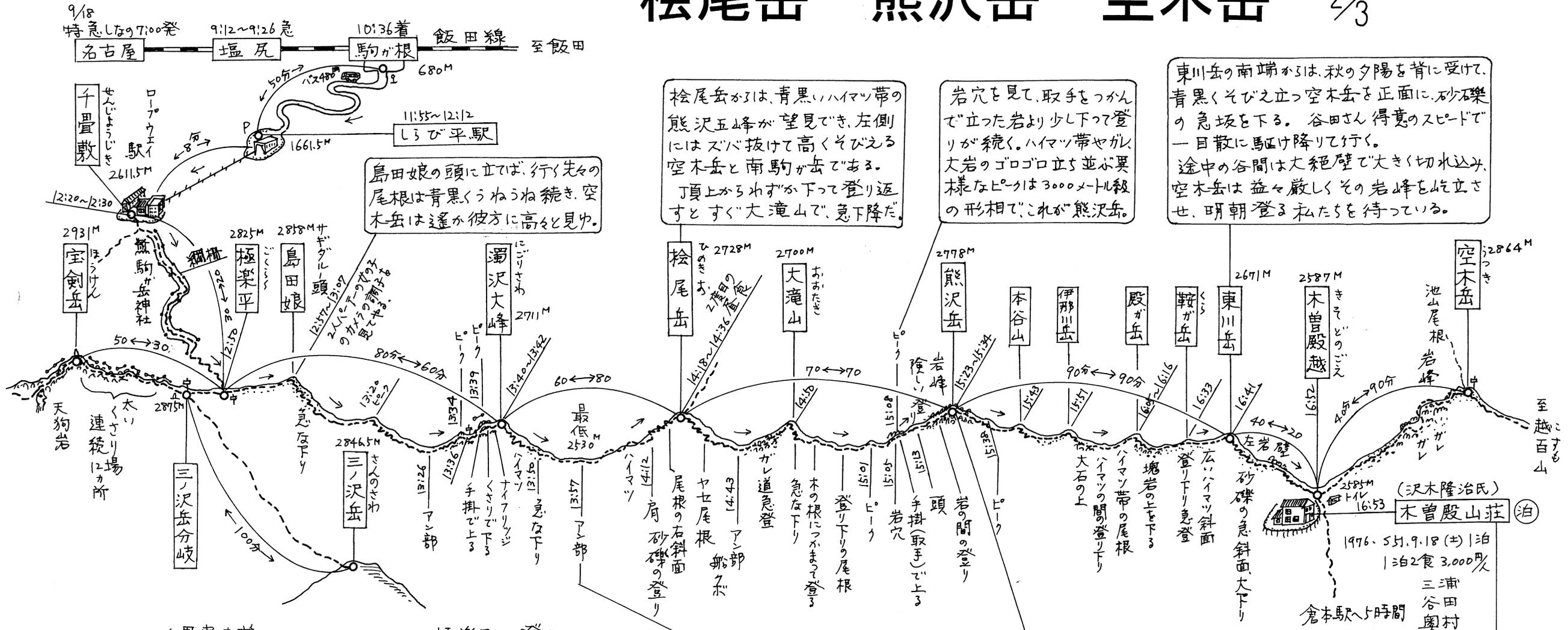


松尾岳 - 熊沢岳 - 空木岳

2/3



東川岳の南端からは、秋の夕陽を背に受けて、青黒くそびえ立つ空木岳を正面に、砂礫樂の急坂を下る。谷田さん得意のスピードで一目散に駆け降りて行く。途中の谷間は大絶壁で大きく切水込み、空木岳は益々厳しくその岩峰を屹立させ、明朝登る私たちを待っている。

岩穴を見て、取手をつかんで立つた岩より少し下って登りが続く。ハイマツ帯や大岩のゴロゴロ立ち並ぶ異なるピークは3000メートル級の形相で、これが熊沢岳。

松尾岳からは、青黒いハイマツ帯の熊沢五峰が望見でき、左側にはズバ抜けて高くそびえる空木岳と南駒ヶ岳である。頂上から水が下って登り返すとすぐ大滝山で、急下降だ。

島田娘の頭に立てば、行く先々の尾根は青黒くうねり続き、空木岳は遙か彼方に高く見ゆ。

木曾殿山荘の夕食は手の込んだ家庭料理の実においしい。味だ。漬物もいろいろ沢山で、感じのよい和やかな夕食風景に誰かが満足感でいっぱい。岳ビールと酒を飲み飯にする。その飯の上手な出来栄にビックリ。この高度でこれほどおいしいごはんは、今迄出会ったことがない。登山者も北アに上りてマナーもよく、迷惑のかかる、静かな振舞いでいい気分。2階は30分占の大広間で、9月だから楽に眠れた。

特異な大岩の乱立する熊沢岳。本に書かれているように五つの山峰が並んでいる。いすれもハイマツ尾根で、伊那側の踏跡に行く。殿ヶ岳の巻道を過ぎてからは木曾側の塊岩の下り道、そしてハイマツ斜面の登り下りの繰り返して水たまり。最後のピークに立つとこれが東川岳で、右下には赤い屋根の木曾殿山荘が見えてあり、ホッとす。4時間余りよく歩いた。汗を流したあとのビールと酒はうまいぞー、さあ一気に下ろう。

最低鞍部から尾根の伊那側、木曾側とハイマツの間を抜けてザラ道のジグザグ登りを言おうと、松尾岳でみんな休憩している。昼食をしながら空木岳の左は八ヶ岳、そして甲斐駒ヶ岳～仙丈岳が薄青く見え、三ノ沢岳も黒々とそびえ立派な山容である。その奥には乗鞍、御岳も姿を現わしている。宝剣岳は相変わらず鋭い針先を立て、ピラミット状に険しく裾を開き、駒ヶ岳は頂上を丸く対称的である。

いよいよ空木岳への第一歩。花崗岩の小石、大石の上を歩く。7月なら両側にチングルマ、キンポウゲ、ハクサンイチゲ、イワカガミ、ハハコヨモギなど美しく咲き乱れる華やかな斜面だが9月では望めず。美しい光景を想像しながら、一途に稜線へジグザグ切って登る脚に力が入るのみ。20分で尾根に立つ。気温11℃、風も3~5m/sほどあって、むしろ暑さも吹っ飛んで、そのさわやかな空気はやはり秋だ。

ロープウェイ千畳敷を前に
ちよと2年前549.9.14(土)木曾福島Aコースから、空木岳まで縦走する予定であったが、宝剣岳でガスってしまったので中止した。今回はその続きで、天気は最高の上天気。千畳敷より登ると、快晴の青空の中に、灰色の宝剣岳が荒々し針先を突き出しその偉容を誇っている。その岩峰の裾は、千畳敷大カルデ、ハイマツと枯草模様に色どられ、広々と扇状形に開いてガレを落とし、見上げる私たちの心を圧倒し、登高意欲を盛り上げてくれる。

(沢木隆治氏)
木曾殿山荘 泊
1976.5.1.9.18(土) | 泊
1泊2食 3,000円
三浦 谷田 奥村
倉本駅へ5時間
(コースタイム350分を休憩含み26分)